通神記釋

三教色

完

特別
へ13
1259

特
門 遠13
號 1257
卷

宮城縣図書館

口説貪欲録 壬

秋風起つて帳より花鳥まで長て
備給せざるに神代釋尊だに
けつて国家中に孔丘中に道元
せつと相談れたりの志水ろん十
情情の利急より展催侵西しも手
拭白川の繁の繁華の中浅の書出し
とおもふ一姫寺使臭近ち浅して
浅在家の悪宮場長して姉妹苦

めたり盃を傾んし歌仙の新賞の
嘘贅を但せ且卓上の孤芸を引
寄せて互に晒落の小冊を著せり
とて間のお身とまた二世を誓ひ
菜園ちの幸れかをはるてて
ちちあり天宮てんとてて
動られれれい弔志をきりして
しきゆんして回蔵十るんで大通
のらと初んや言葉身徒堂

文雅と俳作して年の孔板遠問
もるる浪泡やるに行るる
る一舟と大文輝日方のえの
只入て袁門好の岩の野号
と時りて花んで彩板新春
いとに客よ大隈薛羅
館の耕書堂に質の休州と言
る菜の如

一 后 元今之教一部
とり呼いろる
道子孔子の母儒者の
脚義書印 [illegible]
他と〳〵しきを
成人聖
聖人賢者の脚義の
他と微者倡者の俗わら
〃

印 印ずと云

書記 唐来参和
作人 志水忠千

通神孔釋　三教邑　前座　三聖邂逅

四季繁華曰孔子名丘仇名通其先通人父者行了簡母者俠氏以其女即二十二歳年明之歳十一月庚子生孔子於此昌平橋水道爲兒嬉戯常唱河東桑青樓及長成氣意浪〻度〻也ゞ〻〻ニ

ほけ〻さハ嘘〻て髭長の骨長爰ゞも遠

まもりてはゐ堅固の不敬今古亦も慨とゐひて陪
ふ出べき文宣王もと年世よりて大通の位隆盛
んなりしぶわしらかれの久えして移ふ
りのい人人はたくく流世とおりひ移ふよ
今ハ昔と遠ひ和ゐ和ゐ滑稽ゐ
るゐの中に長物ゐして仁義禮智信の
道青表紙の反古と自業自得ゐ志ゐ
まんくしり意味の一すゐ幕学ゐんで時
巧言令色の迎ゐとゐゐんと之大日

如華の東都昌平橋のゐ庭より鄙
風流風雅と尽して二階三階ゐ家屋と
立て邢君樹塞門ゐふ習ひ庭ゐハ
本を植めも物好利休宗旦ゐ格を嗜さ
世ハ東江流で大通亭ゐ云ふる額を
掛ゐ蹴さくと石ハ仕ひ六蔵ゐ山ゐ
祝ハ初寅裏ゐ金毘羅日の拝びの
不合樂ハ時ゐて花菖の東前ゐ流れ
射ハ裏ゐて楊弓ゐ和ゐ紀ゐハ深雲ゐ

ロッキョ家れい太い細見滑稽なる服をさ
らし数い老ひちゝ正化人のメくらして
ゆ熱髮天寇をなや四ヨ治いせ芸物ゝ
ちく永福庶きゝと正厳儒半の衣紋首
小老出け茅力細ふして髮のゞゝ飛
ちゝ假煙管賠さうり天生通於戸
る情の皇初オ実りこる使て出して
きる出ゞと好こぬくゞ通不孤必有隣共
ころ南瞻部州豊秋津洲北神五代

天照皇太神宮も甚だ蕩樂に陶しく徧
ゆゝず侍ゝぬに幸も礼きさせ給ひ兒
屋根のにの凍詰もくゝいれさ寒ゆ過え
めとえあけさせぬぶ寒ひる させ給ひゝ
給ひもえ寄ゆ三トゆ重四天六根
清淨し掛ひ出ゝゝ掛も遠ゝや給き
ゞおゝり八重洲のとゞ法のを化俤保掉庶
の八ッ耳小文ち化会詰ゝこ陶り給ひゝゝや
天ゝ立きり紙ゝ光ゝ良や春日やミ

幡の神宮に百二十夜を祈りしるしあらば百
の神達神代ひさしかるべき天の原に集り
給ひ出雲の国の八百万の神たち稲
荷を眷属ひめ比比文宜王の下の眷属
と為り給ひしらどもはんかとぞ神
の一口も左あり給ひ一寸えん閻魔に行けよ
孺れよ吾が願へ毎晩く孔子とはれを
拝里のこたへ給ふえんらい孔子もこの
めり給ひ給れい茶屋の肝屋を的毛

の使ひまして表向とハ神の名て皆懐しりお
して世俗を使ひ給へらしり今の世よ考迷
人の振舞まて拝くるとと神とやくふるん
ひもあれ初時紙も懐も風よさとひ
取て拝さしたしたれ孔子ハ炬燵
まあるとうるく水調よ三味せんあるとせ
前かてくてくて辰の日いた神分者来ふや
この使ひ白川夜子踊ハ屋敷ハ
住けどこうて麿きさ志ます屋敷まれい

又掃除して仕足し 子 幽 アく色てきれいなうさへ
掃き日てよ新ぐ 孔子 はを拭く コレ 色子 モウ
行附ぐ 与ふおきさうなせ 太神 於 今 打角
紙ひ筆と入て居さものと 凶 新 ハきつい至
麻ぎ ひぐきぐ 寧 ぐとばけぐら
付とくいせろハる 太 モウ いっさ海に用意拵
ともいてたうんぐさうふ 国 モと 太神 さんおうくの
ちうたよい汚がはひて 国 ナア 云 虫の
頭よ汚せるぐ 凶 色 ぐるものるとを神くい

つで金ぐちうふさぜ 太 太神くトしいふるハ
よしてうん知居作の子とでハちてこるふる
ハる 国 ちんを神さんと云やせくら 凶 ソレテハ
ぐうふ世界のしぐと結く 国 ソリヤ ちうて
夕べ来と一俵ろで 牛中さ 凶 今 飯 禁さ
のがちう大ぐまうつせ 飯 厭 精ぐ 国 今 月
いんぐ入中さ色でハ陳以来の通人海
窮ちぐ 国 コレ 子 語 公 居作のおとものぐう
ぐで来のおいちして 耳ぐいくそれよたけて

和もこゝて庭てもはきよくはらひ箒
貴有天をんるるふとんぞうとさうち寄る
手も蘆伯玉やこの子孫ら小間の下の拔く
ふとうつて方こ通ぜ敷こさられも拾ひ拾われ
ど助ら神ざよとうこ司馬桓魋敷そやさ
こはるまつて自然高と腰縄でひくと事
ぐちつこら世因りりやアどやこて回陽虎ま
似てあるこでくちびさこぶハあれも大
紙張さ因公治長さんも沢さでいはたりや

ちんら因ありれも人ちびさ図それでも今で
世帯でるおつて傾城でも笑てあるハおお
の器量ざる図きアこ寺だらかんぐられて
金ぐきひこらねく子ホンミ骨ま寺こ鶴の
ありれの書付ぐ寺ヤさ狐の表ハ忘言寺
ねぐ利上けをせずして流こかんる図ふあ
ヒやアたこら去年の八月席業の時亜さの
ど元利合せて三ぐこらハア三両の質時哉
時哉因こちも代て寄こらの天の逆戈と

こうして金をそして三千両の祝宴を二日八
所にて今でもあるものゝ品をば十束のは
さびしうさ 図 ミテリヤア行んこはつく 図 皆
な大日かたは右京 苺ちらしてもびやうあ
こんぶたるゝ 図 冨潤屋 和泉ゝだも見ん
徒をあをりまるもちひて寛てあさつせく
図 今と感慨寺とうてあるゝ大異感慨
離坤兄軒 図 そうそう八百萬の神さうく
祈んで出雲でもはて驚べかり 図 えん ゝ

るにでもたて新麦世界とうこうせとうて
八幡はけひ祈んで考うやた 図 付ゝ モウタ
食ぶうゝ行んどうゝ海ひりのゝ 図 今
飯のあまりの羊の冷はけゝ豚の味噌ばけ
さ鶏の貝焼でもこうゝ 図 鶏ハ
切れはうちあぶ 図 行うゝ
あうゝふとつぶ祈ゝ新世界味噌のゝ人とあ
ゝに物をゝくりこ考ゝ孔子こうこうて
図 朋遠方ゝりるあ楽ゝ
ゝや和尚あんと呼ゝて二人供とびゝし行

〔詞〕ぢんぎりとはすりやせぬト云中にも有子なき
〔因〕これハ實くによわけなふでお目にかゝつし、
〔歌〕ホン三 師しいぬしハ怖さきしひかくお
のづからつがなさやさ〔因〕いやこゝとりふ
若さ〔地〕はずふ英雄豪傑の錦繡のお立ハ
〔歌〕アノ須達長者は本堂の寄進とも
まさ〔地〕欲心成佛ハとかく末まぬの〔因〕ゆう
くれかハ彼る方る裳裾流しして
又耆婆扁鵲と化つ亦ハ中の所〔歌〕ますぐ

秋は行かれども阿羅は彼と末代
とむした肉ふ云貫女邑黄金の肌しら
遙雪の肌つありがたく〔地〕寺はまいり居て
も歴て莫てとしてまびしろく〔太〕ゑでも
今夜ハほどひとくじサ和尚もそのはかりでき
さつか〔歌〕然し嚢中ハ空でござ〔地〕それハど
つこひ不侮殊な〔歌〕ありがてへそうやア
どうもして〔地〕和尚も異端の虚無寂滅の
嘘じやりはひて偽し狂言とはくがあれ

又見うせ〳〵ア師
ゝ人なれども 囲 師異たゝ 因 りレ元除
陽より及ぶ 序より
中野市ゞより
なる所〳〵三百を
もゞ市 囲 コレ師
貸をうゞ
梅檀と 囲 麻 釈如
はもりいうるる

て始より
ありゞて〳〵 因 ゝ
りゞ口麻ゞ
ゞひゞ口麻ゞ 因
かさるゞ人〳〵
ゞ囲君買より
通と云ゞ
通といせゞ
囲 口ゞ

ちゞ云られ通ゞ 囲
ゞちゞこゝゝ日
ゞ和尚も法
ゞゞ麻ゞ 因
ゞ駕と三枝云
ゞ内ゞを
ゞ因 口ゞ 諸
ゞゞ
ゞゞと出ず
ゞ仏の色と

でせ〜ち寺て〜 図酒ハ無量不及乱和高し
〜春さがるこしら寺て山田屋へ掛とした
寺やアの〜り因 桜つてもゆ実泊連がおつて居
やせかれしこも一年品田ようけやせ〜図酒ハ
上品の因ニ芦原さ別よ水花と今〜
毎ゆ〜くがしかせとこ〜〜〜〜〜〜〜
田〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
やせ〜図住ゆでふ天蓋〜〜〜〜〜〜〜
図二アそこ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
住〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
見邦の掛出ゆ〜図和光同塵〜〜〜
ちり小掛〜〜の因ホニ〜ちむ〜老子ゆ
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
ありゆ〜図周〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
ケ因ホニ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
半〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

花と生るを樂として肉食を禁じ居申せども
かつを 因 ちりめんの方でも日蓮宗
人は知らずの 因 あいつもべらぼうに紅
葉りかつを一生をそこらいい仕へ申せ
ぬと仏のわるくる極楽利 因 サア白を引て
さことさけて ちりめん
来る鮪は邪ごこと 与つて砂も笑
て来る色では微生高ふでかりるぶは及ば
ぬ 因 コレ料理する切目ひかれた
不喰ぐせ又例のちぐむを忘つぜ是以君

子は庖厨を遠ざく 因 久しいりんざもも
ぜいく本やかせく如来さん 因 イヤ子路
ぶらこちのつせく あれぶたら 因 十二月
つくるちやす料理 因 ヤアナリ 因 秋
おきとあるどるの檀特山の阿羅漢仏
羅漢のあ仙人のたくく料理も高ねぐ
およさいかく 因 おれら陽立の釜がふへ
て長るとづくんと外さつせく 因 大別仕
重やたく亭主仮ふはばらて和尚さ

ませう上一していのに【釈】とうとうもかうんへア、とこいい
ひは義諦でござり【老】おききやアれ
とうふねよ【釈】南無阿弥陀佛ととこゐした
神も南無三宝として【孔】それいつが達六ハそれい
ぬるの【釈】ぬるでぶんま者よふって
青は九年ませりくって居るはそれで
も不立文字教外別伝かとくえるる
石を葉じてくとが発しまうつんて居る
【老】一不許酒入大門と常言とつんてい

好でゐしてどうよせるもので【孔】おつがもう
でも季氏ぶどいハ山るで大ぶ南さそうふ
で八一の利合で今と方くとをつる【釈】
ちと借りての【老】借らいおつが方の犬を
已貴まるふ云われ【釈】大あるむちとい【孔】
大黒よ【釈】おききはいちとさざね【孔】たし
りりし天竺よ居る時ハ摩訶迦羅と申
云つさとうでさ あいつが志いて出を抱
【釈】そこハ怖妻那の弁舌は文殊の智

急でうにのうすがき図をれうり孟子表
屋三郎よりはれがはしりを送うと言て黄ひさい
図ろうちがま代の雷のたの中たのたのは
してくれるもうちいさい函ろうがつるひ赤
あまりも春日ノ八方あれど信てたとれと
おもてぶ図ぶのやしぶうおいとぶやさぶ
和尚ろん図彼岸の中ぶ内てあきまるこ
まりのの二ツおろくしぶ図おあいのおろくぶ
ろりの図おまも海苔との梅漬とそる

やろよおつぶ図ちい偏祖右肩和尚好物
とめろ四孟子ろんせるる祖襟裸裎ろって
うつせ図因おとしいだじ入おまあろ中ろ
図おこにもう おろぶ図函ろ反ぶろ紙ぶ
けぶ観音をさをひせろう因あいつぶう
ひけろを高ヤがるうぶいめ図ろ
ろぶよ全ハ編ろろう傾城と寅せていま
のある男ぶのと図久ろろふ音函
知ろんとはにろぶ因陽ぶろぶろう函

なもづく 図 あしたに紙屋四郎 余程こゝ
よ 図 松屋のまきさが下で はをとゝしく紙を
ちゝしたゝさく 図 行ゝさら女のこゝろなり
と云て居るくぐの 図 それより鼻をのぶる
と成まがせこゝしらて居せ 図 洛西にて
かゝしゆて女ら男ら ワヽねのさ 図 要せ
男子ぎやあるこゝ 図 附子人をぐとゝい
は火院布の羽織とおて 丸ち信
てまこつせこゝ 図 それでいあれ

はまりかもつぜ 図 朝る晒落とゝして
タアか死すとも 図 是可すり 図 それいこゝ
ざれかこゝ 図 ハテは聖宅と家勢よるして
金い満しゆ事ゝる 図 それも悔さ極り
もたゝ 図 無遠慮ゝ云おゝ云かゝ
ゝぎやアゝ 図 弔ら亡母ぐ天厭く
図 羽織と挈て質屋ゝ 図 困窮如
ならぐゝいゝ 図 ゝこゝゝや
くだの 図 はゝぐて はゝるゝ 図

れい板が空〜〜さらさらと流れ
宜蓄でも食ふ図 そんるゲ畢と云
ぜて行げる正直 寺ふ図 正直ハ一杯
の盛つ是〜すてい やどもはひる仲ぬの
隣とかうひつ図 世間ハ今夜の世界ハ図 青
樓ハ売れ〜る図 行ぬ仕ふ図 ちれい
芳町ハ〜移〜ぐ 銀角老ぬ西なへ
外ハ行わ図 孔ちか正へ半りもの図
阿弥陀しなかも〜 内ぬ行〜さ図 そこの

大和ぬ〜〜移る 家つて婚〜寺せ〜
図 事ぬハ也湯ぬる寺ふる図つ〜ハ寺
ちてふ図 ふる図ぬふ神のふる
もわ〜ぬ是ハモウ 居わ〜せ図つかやの
図 れい黒河亦のかう〜小寺ふる図
なんでも一ぬ〜て一ぬ〜せ図 ちうの
ふさ〜ぬを離ぬ〜ぬ〜ぬでちふ図
ふ〜〜図 ふちがつこよおもが図
ちふ〜〜ふ〜〜〜〜〜〜〜と

さつせへ外たらく箸合せ囝宰我子貢らしいしら
弁ともつて推あくどして朱中さ風
これハ太郎まへそんなりまめへ留守と
あれひやけしへる出さつせへ太医
杏もしらし瓢しらし風遊者如斯
吏不舍昼夜囝そんなりおさつふあ
したお風ふうりやせへ

後座
青楼雑談

旧事記嘘八百巻萬八枚目曰天津浮橋之邊有數多娼家通之客神銀漢乗扁舟云中にも天地金の伊弉冊と云へ全盛のおいらんに伊弉諾る鶺鴒のとりもちまで浮橋での一寸のあらしに浮しうかせ給ひ大調来状の船とし連雪の居續銀房ら笑ふことうちて毒あ揚げのもまへのはなぬ事おすれハまて多し

の矛を下してさぐりしておのころ嶋の剣
花る国ひ立ものゝ朝暮住しけれバ
男女常立のかたちなり我ハ是一人獨
すまゐれはいかゞむすひ男女交
合の花と始め内ハ根より混て泥ごとして
ゑらしゆつひはなしと出所を経第しく
て二柱の御神を陰陽に遠つて流れを
女神男神も人々の身を陰しく是ひなき
乎むすびの身るれいかゞめしまる仕事まち

もあり陰陽へらは姓名ふめつてハ一門一家さいわ
しはまる あしきねの荒地と又立天浮り
私と立て 夏女也と云ぬのてそれより西の
天めよに女神とあつめあひて陰陽に娼家して
ぬし陰のさまれハ神の左遷まで陰ひしてる
遠ばして人々の業をあるゝと神 浮き名付
まし是和ば流れの君の始まり其のち
人の業ふいりて江口定の津甚外西の
出しあげくかゞみふいど海あしず又東路

小屋へ入りしに浅倉屋の彩を作れて
娼家ありしに吉原大全中ゝ豊屋の新
よくこしらへあまたの花を抱へ立て繁
昌せしとなり此頃京都今の大門内
今の新吉原に引移りて其後ひとしきりの
きて松の位の散らせぬ金豊屋ゝ弓ゲさ
がる花魁ばかりもおびすがてこ
人の聖達い途中こうこと数ゝ出ると花
ぐ大門へ入るまい幕引如ゝ滑稽

ゝ仲の町たゞかの長浦屋ゝ乃世ゝれ子
久達ゝてあげ屋つゞき梅玉さゝ
楊屋ゝ吉ゝとの豊よ花せ玉ゝてゝ
花屋ゝ吉ゝとゝらせて仕ゝと仕
ゝせ有ゝ花ゝりの位ゝ有りてて
ゝゝ仕也ゝゝ拵竹ゝ紙屋
ゝり二階ゝより居ゝ廣ゝ
國ゝし長ゝ宮ゝきゝつせゝ因十二宮
ゝゝ神儒佛ゝゝ

ゆくぶよ元でいく囲これでてらで儒教
神ふるりゆ元周吾人今日ハおゆくふ巴一
元でこさりゆり囲されらさてゆ元
ハ重一代ふ囲時ふ家ハ私ゆ元ゆ
の囲イ元ゆこしふ家ハ私ゆ元ゆ
風雅ゆゆ元ゆ胡国ふ古葉集こち
らのハ和弁ハ元ゆ囲投入ハふ書
を含て回元と散ふて城を俳人
歌元ゆ囲能ふ回元ゆ海ゆトニ元

たゞこゝゆんとゆゆ
けしんゆゆて行
囲異論うんて回ゆゆ囲ゆ
ふゆ囲コレゆうんゆ家人ゆ囲限居元でゆ
元ゆ囲ハテナ囲酒ハ百薬の長たり
重を拾ゆ元ゆ囲姫ゆ元ゆ囲私ハ
内て考ゆゆのゆ重ゆ碑ね囲ゆ元ゆ
碑ゆ囲ゆゆ元ゆ能ふ能ゆの海ゆ元ゆん
ゆ元ゆ囲ゆゆを元ゆゆゆゆん私
吉囲酒ハふ弁ゆ共一ッたゆゆ執着心

発句どれ砂と志ほふ園ろうちがた
いと釈ちゃうと有こと一つ法さてい俳
西方でいるて小方極楽浄土サアて
こさいろ園いくさいませ因一つ春の
釈ちゃうおきがはぐこの風和尚の酔野郎の
盃釈それるんのぐさ風ハテ蒲萄美酒
夜光杯ぐさ因欲呑皆無上ようぐす因れ
るぐろかるく上梅せくろ風再せば是すく
はくろく園えるくおあひ因つちゃい

やおいんよ志ろきこのものと因砂はまく
おれぐはろ因宴出しるんアレおぐんを
釈息子とおれはぐまきるかかつぐ因者
とゆくく蓮根泥酒とて鶏卵の如く
志ろく園ろゆろろ口押とくます因
酒ることて半ひせくく因これは迷惑ぐさ
あるく因慢法酒莫愁因その牝鳴の
ちんを園工因土牝鳴ぐやゃねく愉婦のちん
とおろせく園それで光明偏照

十方世界に 因 さに人の面ちらつる 孔
見るよりも 五臓にこたへ 大ぶ考るの 因 此の毒天
が五くゆくゆくげ 十位を ちらつやした
七方泥をと 指手つ
るるぬ 古風の 因 り 祭りの ありてさつきちらつ
因ちとりんで 因せらう 因 三戸 表ろう 因
さちらつさてやうぐ 神ちつけて
因あるさ 根ちたり 海せしちしてあげ
きせら 因いちかちつ 因 さやちつ
たくいゆてちつ 因 早苗

や 因 アイ 因 ちちつ まや
因 今夜からくぐい 大宅のやでさく
こちられぬ 因 火 体の火が 外 ちつ
つる 因 ことあとげば いちつ たこる 因 撫
や 使れを 外 てやちや 因 アイ 因 この
見をあいん 指ていやや 因 アイ 梅沢ぐ
其祝を見 のけてくぐせく 因 おいんちて
さげ 歯せら 因 押やたいせら 因 三戸 せ
ひちとの 行 ちのく 出てまち 因 平 筆之 何

足算也（そくさんなり）ぐらゐで夜は損せぬ　るつさ〔新〕くらゐ
のいさん一寸咄にかけてくんさんし〔新〕アイ〔新〕
アレまへじつが此通りいふねへきくいしれ〔秋〕
コレあの子宮へ一寸まあや　いゝあのとおもろふ
〔禿〕るんでこせつ出てトそぞくまるでところ　ちりやらいざむきしてやる〔禿〕どれ
うんせるさんしおつるりのぞこのふ〔新〕うすでお
よてわつちもくんさんし〔秋〕それは菩提樹（ぼだいじゆ）
とてお数ざ〔新〕ツヤおつるりのぞこのふ〔和〕こし娃
御堂へおいてまてつんせや〔唐〕どれおつる

めであり、しもて三〔新〕さんるいさんし〔古〕
りんすねへ〔新〕りつとあついおくんなさんし
〔秋〕モウらるへし〔太〕とんざものとおてまへ
の〔新〕梅浪さし　わちま一ツくださせく〔禿〕わち
ヤアいやトてつれをもちにやていしも〔亭〕とんだ
気をまひろぐことをねさせます
なそくしで梅さりゆくしさ〔図〕梅亭さん
お出るんしたら〔新〕梅さんがとふへ来るさん
た〔因〕ヤ是は御出り〔凡〕梅亭の学問お居せ
さう見せてやろ〔亭〕ハ様に今不め何まも

おもてにさかなをひたしてまゐる　九
吾つせく　亭　はるをことほぎてまゐらする　囲　ゆたけ
長で始て一つ進ぜる　囲　進上大盃敬白　囲
りつぱなそれは大きなりのでひざりもの
ときよせる　囲　内下ゝあげまする　釈　サア
囲さゝゝるゝいゝ　ゆたけ　ソレ　つぎは
い園　長いせし　一ツト　花のひと　因　そこで
如意満　囲　臨機應変　その長い
ものよりさゝつせくあるまゝ者とはしらと

長と　囲　長いありゝゝどさうあるとて　亭
こちらの柳あるゝゝあげませく　園　ろ
ちく　園　つちが　砂い　志ひて　囲　はたとちて
ろちくあちゝ大きな　敬　有ゝゝ　因　コレ　長
まんじとちやし　ゆけ　ちやの　ゆり
わかしまよさある　園　真如の月ぶんざさ
ろく　囲　ゝあるゝ　ありまする　因
呑もねそこぶも　おくゝ　囲　ハイ　あり
ゝゝ　ちやう　海　とトとして　囲　九　亭　ゝんそ

ハじくめうきしと 亭 ほんあきさホニ今
貝あるこのむへおよらやせてなきこさ
孔リリヤア去のまバよくつれきのふハ西方へ川
猶ほ出ちぶりもふハ内ほ忘然と閑居して
居るものとエ、殘念問子ほ騫ぞ 閔 それで
もおれハ肉さら殺生戒ハ破るねへ 孔 ホニ
和尚ホアんせしふと虫つけられつひ
るすがあつ 狄 るすんぞい 孔 釣不綱
ハ細ホ出て来ずつきんかつてきしと 亭 つきん

とぷく 因 アノ仏檀ほあるのさ 曾 こいつハ大笑ぞ
酒飲むら 曾 こふふ何おるきれ持て 亭 大ぶ
きこふはさんねね 曾 されどもさ 三 あんどん
たたとこを丢るへし ト切付て 紅 曾 アイ 因 酒
かくふぞ 曾 おいらぞんやませう 亭 ひとつやろ
つへ 曾 どふても酒のあろかく氏やらふてと
りやすて 孔 酒 淵身ぞ董卓もまぎ
ぞ 亭 おやんどんでおりひふたぱめハちねくら
トいふおろへ三味入れおまちて 因て これハどふめて
万里集 陸玉調 手綱結 手綱結きろ

極しらるるもしらぬ所もそれ〳〵ありぐ〳〵しれぬ家
図登楼万里春ぐ国こゝハ有ぐるし図
秋雲の菩薩ぞ[illegible]りてこゝちく図アレも泪ん
もなく国なれぐるすと国どすた
黄菊ちる〳〵菊の国きく〳〵の花ハ遠くれで
図落涙さんおりてこゝちくさのへる
図ハイそこちて国るくぐ蓮華山を生
どうて来さる国悪のたぐらぬ国下げ
早をいろ〳〵ちるる太千代のなゝと深

籬の松図歳寒然後知松柏之後彫也図
卍不異空〻不異卍もれるぐ来ぐ図
それいろんのもてけるもと図るのる
なれも寺ねく図うてぐれとふく図
附ふちく鼓と[illegible]の[illegible]ぐり図今泪でいやを
ろ図おひきる鼓ぐ作でえて年ばらく
図鳴鼓軟春心ぐ図埔焔ぐ寂滅為楽
るるぐ図長そはぎぬて五でけるるぬ
た国思ハどこさある図亭家あるぞ図それ

如水月をとりそこなふ〳〵国そんなふうに
長浜ぞろ〳〵四つちやゝやゝゝ長浜さん国
見ぶるこだ国そんなふ者とさしてこのね
葉ぞこら好そこやぐ国ちやぐしいとつ
ちゝはそりやアきゝはでやぐいと国それで
も長崎松葉としてこで国やうとも喰イ
ぬく国〳〵ふいけもねく四ふぐこう
揃みものて長の国あまこでねえ〳〵ね
ふり国どれあまりなもめてえ

ふ国どうしてあるよこ長ものぐ国サア
葉をいりいもろつたがぬけねく国をと
踏げさつせく国どうしてえても松越
長い雑混四ヤだらしいヤ〳〵国これ佳
陸子国ふぐ国そちをやう国佳それ
〳〵ト国ちう太おりげでぬけたとき国
と沒ちれちゃ国ちとあま〳〵あげ
ま世〳〵四釈ふ国ふきつたり〳〵国長ハこは
つさあぐ四そふ巻ふふ巻ふ巻ふ巻て

きらがいく志らず おしつけが方ふハおいてんじ
囲 屁ばかり流で はなまり 由を 汁不叔也して
あり万里とも 囲 是ハたなしれく 太 和尚ハ芳 くまける 二人りんりん
町返でうらりんハ人がおそれを おそさむ
よ 囲 トレころちくのくつせへつくくか一
りん系ありやせく 又佳陸 こそひつハ閑口 叙
奏でハ天上天下唯我獨尊ど 図 鄭聲耳
の雅楽と乱り婦ろく 注:そのさま 聖人ありとも
ヤニヤく 図 いつてそおもしろふ杯した 図 洋洋

手盈耳哉 回 ちくそことかさ注けゆせく
圛 おせんが出ました 図 太 宛んで 盂鉢が並んで
山田の大蛇の柿のしふさ 悦んが出るして女郎花
差はそかへこしさんてへうまへし 図 これさ
わつが方の注とめご 図 それごつても 図
こうちハ陥ましてへウ 佳陸 図 たくとお
あくまくし 圉 いちそうだね 図 ゆ地花の
玉酒聖人の飯乾天の砕ず萬客むし

青よちて硬い　あとあつ〳〵　国　長い〳〵ことさ
ひもせ〳〵　国　おまへ　国　はらいまるれもす〳〵　因
かしきこしめして　もらいけれ　国　あれば
飯　味噌　不減　ぐさ八味　飲食　食　酒
国　其　そつさ　はぶる　ます〳〵　お菜　まで
はつけ　まされます　国　教　えんるまして
空〳〵　寂〳〵　かつこ　すとひせる　国　食不語
ぐ　国　あるもう　はせで　はぐりすもう
きんぐは　太　浜　べるい　登て　天とうる　国　又
くりまさる　因　天　ハ　雲　かつ〳〵
国　ホニ　紫雲　たか　りの　国　紫の月と
悪ふと　悪し　四　長浜　おの　きるきやや
のえせる　そなる　国　おちるこせ
うるせる　ぬ　仕　せる　ぬして
のとる　つて　ぬき　国　アリヤ　りつそれ
りるいる　国　せる　る〳〵　国　あい
るつせく　国　つちや　えるる　ちやせん
国　それで　せる　ぬ〳〵　りやアね

つら国このてすもモウ初夏がうらうたてさうし
えれ切せうちさうつ国つちやア号国
それ共初ぐ歌初く李延敏が順
と始さしやアねつ国そつぐ地つさあれ
李伯が詩の名花傾国両相歓対うハ流
紅たりのぐ国あるさ方ハ李伯ハ好
てはたらすす国ものんもし国扇
風つけまひうつけ国春ぐでぐうま
す滝川さんの余波ハ出るされまさ方ハ

ハ京酒るうしやぐ花ぐをまさ
れうそうぐでぐうもも国ぐれう正
招ぬとまこさ紙ぐ字まるこ行紙
国ぐぐこうやア滝よこちぐのいも種の
よ吸酒う国きうひ滝ぬぐ国それう
吸酒ハ国イヤ酒とうるとア
男ハ金ぐよ長安市上の酒家で一年春
て酔ひ忘れて帰ぬ酒ハ長れ
ぬう国ぐさんうつてうるとぬうぐさ

とつぐ国杜子美の尽ぐ〻は世俗とそ
りもて國は山谷あり陶淵明が筆のとあり
〻りひ国いつそきれ(とゝ)ゐく四あるく
さんそうとひつちぐ〻さうや国うゝ
ワつちとうゝ国こちらよりとうん
国そう大腐でいらつゝまゐそ国
もまゐ下りまくと一枚ありやうつ国そん
ゐ〻二枚二ゐよ〻てゝうつゝてゐれが
帰えとゝつゝとれを抜くえゝよりの

ゝまうが国ゐゝと国ゐアロとく観音経
ゝとゝゝサア妙法蓮華経観世音菩薩
普門品第二十五国サアアゝを書いつてた
国ゐとゝもゝとゝハいゝれやせ国えゝう
稱ゐゝゐゝとゝ国それがゝゝこせゐゝ
国引道ゝゝとゝゝ在ハ南ぐゝうゝ姫さ
国サアえゝ国国それ法ゝゝありんゝれハ
国それちゝゝ小ほゝれからゝもおゝ
くつていとれやせん国十二さおりんゝれいで

[illegible]さんと[illegible]
て一ぱいなるいとさそれつゝ
おりしそれがくの百萬てる中の淺の姫
くいアト大きなる[illegible]
[illegible]ウつちやアくひ[illegible]
[illegible]
[illegible]
それ[illegible]
[illegible]

[illegible]
そゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]諸宮入床[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

やうと 和たがてことあるあくるう 太アイ 和ぬ
やアたしらもの所のとろ汚せ屋でてんけ
ヤいいたる 和りりヤヤいろ 和たしら初て
の月てのでん 和ハテ ゑム それくあの所ハ
八幡ぐやうとや 和まさふらって 和ぎ合ま
まさ 和いでう小家つ 和ぎろ 和 和ハ
海ことやし 和ろちろ 和 和なるん
ちいたぬしアおとを 和う 太 揚ちく
変ち矢ちて 和人ら 和でどちく 和なるん

ろく 和十二 あれと 和 和ちく ちろちく
ハあんまちまもす 和ぬ 和のるとろ
ちやアちく ちって 和いるそ 太どて 和
ふってちさアどこの女郎さんすいろう
ちういせんぐ 和ぐさんとやっのちで 和
とぶくやうくちるるんて 和ぎけと仕
るくたいるときんた 和さ 和れハ
えんどうぎ 和ら 和でハあっせそれか
らぬくのあひて 和ぎんとうまんて

やらいふ藝を元と戸阪さんと京人相云ら
ちつとやく行くとやらといつてひりよ連
やてからくるしたてつるとたーかるひ
くて困行くとあるに滝宣ぶ名の和
今夜ゑどいつに会でぼうんーたらね
困弁会ゑ情ゑして新造をあけつけ
和ホニ新造えとあんうんと方に行のか
ひものでゑとゑ困三行きいわら新造
寄くゑ和ゆたちもゑんなーちゑ困つちち

らいかのひ手で羅利せぶあるのさ和し
ちつと寄くとゑく困たくぶぬーそね
くゑよさらい御でさくあまぶりつでも
あてゑ弟さん和ゑうんぶごろちでどのーま
ものくてもねーぶ和言ぶ困つちら
仁王と祈くもろかくくも御くとち
てト無瘋やりて和だまされるんを風ぶ
困ちゑゑそれまてて言さらいちいり
ゑハワりやせゑ和りりヤアちやをねの

名ハ[illegible]しいとさへうんかの墓よさんどの
祖さんたのしく本ニ[illegible]夢うつつ
やせ困るうちぐ名ハ帰
幣し事也困めを書こんと（おやゝ
却ってあんでありいとね困どてうあひてい
るそうでさぶさしん和こうぶいつをあひて
いるトいるかけ祖るりゃ我ぶちうと
花びいさトキせるでき中ア欲とうこ
ゑそう困読んでえねつこいハ去函

さ困ナニタんぐうよ沈のたぶするひなバ祖らを
そそも祖や函らんまこうなるゝ
をそそこうひるうをきぬのあて
まるゆて去いせこうこうできるん
困ろうゆ祖ちしら陽祈祈をるが
い困ぐふでも去ひせうかこうんぐ
一人で来ゑしゑ困きゃア来
しぶせんさい人月接祖祖けりゃ
ゑねゑ和こをつきうを困なの

まだ今までせんくらいづつ[和]かぜく[因]
おぞのう〳〵ぼんぼんの世話よりかくのぐ[和]わるな
ん[財]の[財]の[財]新造[財]図おいらんちやて[仮名]とかし
ようし[芸]はいさすが[釈][仮名]よ[因]〳〵[仮名]
したね[図]世を安楽〳〵[仮名]暮さのもの[仮名]と
ちやんとおてしたて[因]あんまり[仮名]ほとおあん
ようそう〳〵それで[図]そじやわね[仮名]拾えて
一切[漢]とかぐらとてのうみまり
ちひて[仮名]暮かす[因]ぶさたげのぐさんといふ

帝[漢]の宝[仮名]仏[漢]とうて来るぜん〳〵それでみ
とかしん[仮名]ちさ[仮名]釈[因]金右必[漢]裏八[漢]浮世の
ありさまあさ[仮名]ちけ〳〵くれは又遠さうるも
あるのさ[因]モちつとてそちくろうん〳〵
図[仮名]くぐさはめて〳〵[仮名]くぐさで金佛と抱ひて
[漢]様さや〳〵だ[因]ぬ〳〵ーアいつとやとつて
居ようとね[図]飲酒[漢]戒とやるか〳〵[因]
ワちやアとくぐさ[仮名]ぜていてそよ[図]ぜ
ば〳〵女ぐあれいさとくぐさ[因]ちつさらし

釈 悉達太子とハおれが幼なゐ亊さ 三 まさ
るこしとらふんまそらやアそんなぬしの
方がどうちちく 釈 天竺さ 三 だかしれ
てんぢくといふ雲のよく 釈 そうさ 三 ワ
つちやア雲の上へ登つてでもしてゐるそ
よ 釈 天人がぬつとぶらいて 三 そふかいたら
若く界でもするてしまひあつせうね 釈 上界の
天人も退没の雲がかゝつて五衰して
てあれでも若があのさ 三 ちすぬしの

ごさいの亊ハ中にておくくろうがあられますよ 釈 不
くろうといふものハ夜るるるすくぬさ 三 とき茶
まりきるもんさ 釈 それさ附薬で夜湯
かけたらそれでさ 三 どうしてぬしの
亊ハ貴人さまでおまへあの歎のおつけでるそる
それからかんと申してまた病ましたし
思ひ出すさ 釈 法體ハ坊主のふうさ 三 ぬしア
お寺になされね 釈 まづ医者さま 三 かくるえまそ
お和尚さんでおきさア 釈 和尚が女郎嘘も

えんどうぼだいは空煩悩衆生
則菩提と国示すなり　つちやうん
出るなり　たよ　国　釈　きりはいやだろうの　国　ナニ
つちやアはうさんが　国　おきやア
げれ外面如菩薩内心如夜叉　国　いまの
おちるさんぞうんるかさひのことかさんと
おて居るそそだね　国　妻子珍宝及王
位臨命終時不随者　おいはかさひのや女
房いきひさ　国　そんるぬはぶねく

国　真實不虚なるあつのさ　国　あつとい
た宮人小性のあつたなぶね　国　財子　財
物のあが一ていと若ひさひ　国　そんきの
つひ　国　あんりもぶ有ちぶ　ちこ
されさそなど　国　死で仏なりんるなり　釈
二月ナムアミダヤアあつらなり　おやこ　ナニ
あが若てく　国　あげやせ　梅治ヤア　若ろう　国
つちてあるそ　国　本　面そんらどるで宮人
げあが若てていとあかそで

来て[illegible]図そこの茶[illegible]とおしひす
おもうゑ[illegible]図ど[illegible]おれやいて[illegible]
くて来れ図サア[illegible]できひ[illegible]た図これあら
[illegible]ひこれでらか[illegible]ゆと図ひごとしてずば
あんゑ[illegible]図ひご方位[illegible]て[illegible]功徳
ごよちとニノモ[illegible]ひご嫁鬼の如くのく
たう[illegible]ぶ[illegible]て[illegible]仏[illegible]図[illegible]
体ゑ[illegible]図アイ図[illegible]行無常[illegible]ひご
ハッちて[illegible]藤[illegible]

図十万億土のたかう[illegible]てきよ遠ひごてご
[illegible]図[illegible]図善義[illegible]我[illegible]これ図
[illegible]たれば[illegible]図[illegible]おしいうゑ[illegible]図それ
[illegible]孔子さうんぶ[illegible]ぶう逆鱗[illegible]
小云の[illegible]ぶ図それいうゑ[illegible]だ図青楼で
小云とてあかりう[illegible]の滑稽なりまそひ
てんごあのくぶも仏会ね図ひごアゑる
[illegible]床を出るぶ愛別離苦ご図邪見の
室ふかゑ[illegible]ぶ[illegible]ゑ[illegible]

いとゝ大きくなりたいとつくまきこゝにとゝ若るゝ太平樂の巻

図 翠帳紅閨小太平樂の巻

絹ハ雖放蕩子赤有るどもふつゝ要ゞこゝ

ちゞ如此蹈張と俗のもの天の命ぶ不

ちゝねゝが面のこゝ大そるるされで

も云ふだ弟。如きゝ徒ゆの通ゞよ花そ

きをるとのゝ人ゞ米粟土之墻の如く

小ゆるゝて閑隅小退て戸の如くふさ

つてゝゝ危邦不入乱邦不居ゝるる

小屋ゝゝ寧帰與ゝとゝ如ゝ

図何人でゝゝとゝゝゝ

はいとゝゝゝ

ゝゝあゝたいとゝゝゝ

ゝゝ悪ゝゝゝ

胸中の一つゞ客人の善不善ゝ蹈張の勉ゝ

ゝゝく図コレ左ゞゞ共邪ゝを滅ゝてちゞ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれい共功徒

ゝゝて洋銅熱鉄の如今も忽功徒地

変後世寂光浄土の如くふるまひし宝篋
印陀羅尼経の通三ゞ 因 和尚の禁法と
引てのゝ通ふでし人ハはしらし
て、済ても天んでんくらへねへ 孔 宴のらず
弄りのか沓ハうすぐさ魚餒而肉敗色
悪臭悪不食是ぐくてつまらぬものにして
われしねへトけちくすひやうし 異浦 じやろん
だぢらしい 老子 そんじ宽人じ 因 是ハどうで
どうぞ因法ト訊とそんじくよあつさ 釈 イヤ

娑婆は末法じやしん 老 いらさぬくしがつておまへ
つて小気をとらふのハ孔子がおもしろくもねへ 孔
ますさへいゐるさ 無 三人で砕す砕てゝから
有ろけてはさ 孔 おしてハ異端の骨長くねめ
和尚とバ 釈外 乃たのして御座て虚無空寂
て一人であれらの 因 独でハ有まへ松ゝやの
非が有ふ 釈 楊朱墨翟でも来さろ 老 だ
独楽さうらやアそこで三人あぞろてもよし
くだつけが中がよくあつまの 孔 後楽也

[illegible]

[illegible]

一不[illegible]

でいるいろ困[illegible]の[illegible]

を二[illegible]命[illegible]

いりんぐとりの[illegible]

[illegible]

又がし[illegible]無用

代也[illegible]

比乃也迩

潘年季著